

勉強会「生成 AI との向き合い方」アンケート結果

【日時】

令和 7 年 6 月 30 日（月） 13：30～15：00

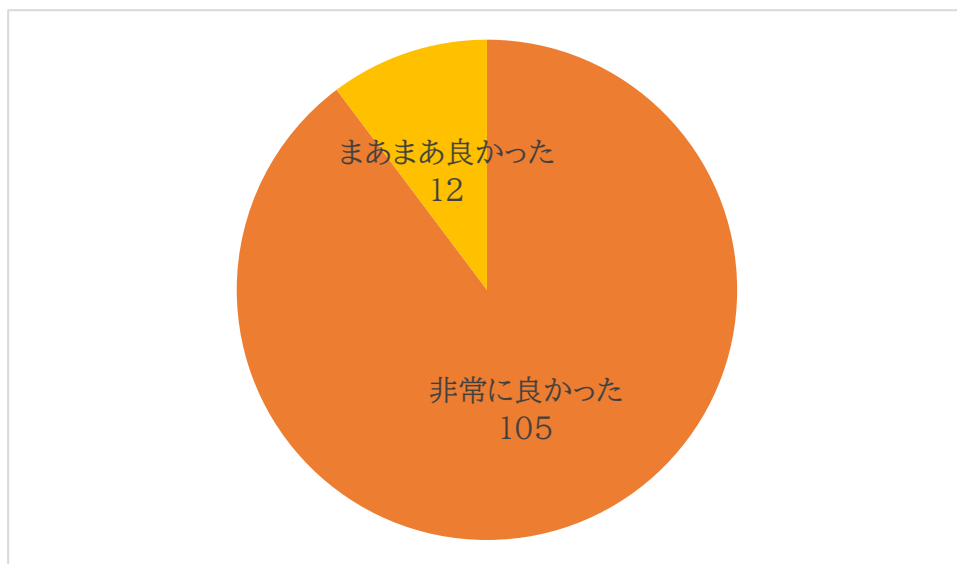
【参加状況】

申込者： 256 名

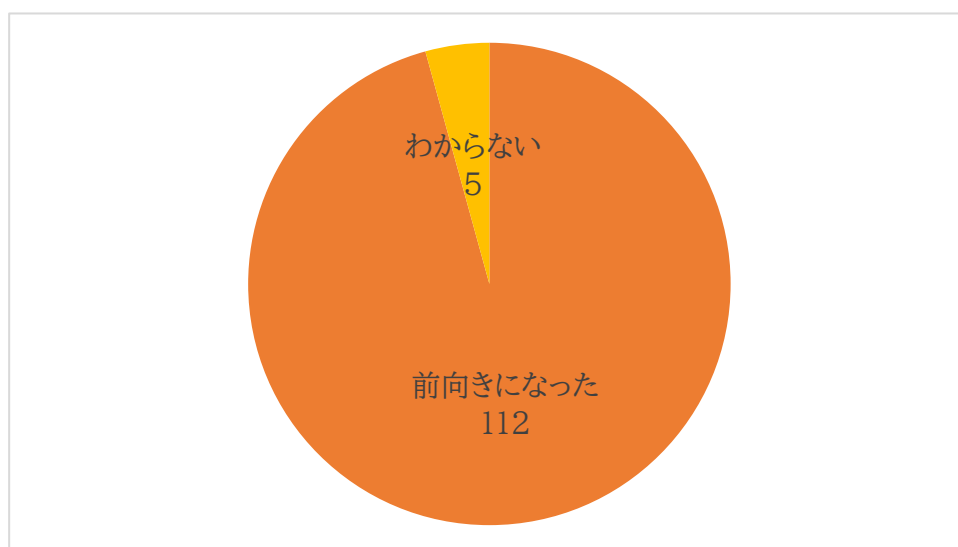
当日の接続数： 169 名

アンケート回答者： 117 名（申込者によるアーカイブ動画視聴後の回答を含む）

1. 勉強会について当てはまるものを選んでください。



2. 生成 AI を使用することについて選んでください。



3. 使用してみたいと思った方は、どんな業務で使えそうか、思いつくものがあればご記入ください。

※自由記述の回答を、AI を用いて類似内容をまとめるなどの整理をしたものです。思いつきだけでなく、すでに活用している例の回答もありました。

区分	項目
【1】文書作成・要約・校正	
①資料作成・文書作成	資料、会議資料作成 広報資料・ポスター作成 スライド作成 図解資料の作成 英文作成・翻訳・校正 マニュアル・業務手順書作成 規程改正案・事務文書作成 企画書のたたき台・企画案作成 説明ロジック組立て・構成案の相談 記事・メール・原稿作成
②要約・情報整理	文書の要約 アンケート自由記述の集計・要約 アンケート結果のまとめ 学術論文の内容理解（OA 推進業務）
③議事録作成	議事録作成 議事要旨作成
【2】プログラミング・ツール開発	
①プログラミング・自動化	プログラミング・コード作成 マクロ作成・VBA Power Automate での自動化の相談
②アプリ・システム開発	シフト作成アプリ開発 チャットボット開発 Web 予約システム開発 情報検索を補助する Edge 拡張機能の作成
【3】情報収集・調査・リサーチ	
①情報収集・リサーチ	他大学の事例調査・情報収集 文献・論文リサーチ 外部情報（政策文書等）の調査 検索結果の要約
②知識・アイデアの壁打ち	アイデア出し・ブレスト 業務改善案の検討

解決策・打開策の検討

検討事項、漏れがないかの確認

【4】図書館業務の支援

①管理系	請求記号付与・目録規則確認 書誌作成の相談
②蔵書管理・蔵書構築	蔵書点検リスト作成 選書リスト作成 購入希望調査リスト作成
③レファレンス・利用者支援	簡易レファレンス 問い合わせ対応 ILL(論文入手)支援 ガイダンス・講習会の資料作成
④その他	カウンターシフト作成 広報スケジュール作成

【5】その他

①その他	ソフトウェアの効率的な利用法 まずは何をしてくれるか聞いてみたい
------	-------------------------------------

4. AI に関する勉強会等、システム委員会で実施してほしい企画の希望があればご記入ください。

※自由記述の回答を、AI を用いて類似内容をまとめるなどの整理をしたものです。今後に向けて、より具体的、実践的な企画を求める声が多くありました。

1. AI 導入・利用に関するポリシーと課題の共有

AI 導入における課題(ポリシー、留意点、著作権など)についての議論や対応事例の共有

信頼できる情報提供や、AI 技術・倫理に関する最新情報の定期的な共有

2. 具体的な業務への AI 活用事例の紹介

大学図書館における、AI を活用した効率化事例の紹介

各部署の業務に特化した活用法(例:レファレンス、技術系サービス)や、図書館ごとの具体的な小技の持ち寄り

3. 生成 AI の実践的ワークショップ

実際に手を動かしながら学ぶ、初級者向けの講座

効果的なプロンプトの作成方法、ハルシネーションを起こさないコツなど、実践的なスキル習得

ChatGPT、Copilot、Grok など、複数の生成 AI サービスの使用感や得意分野の比較体験

画像生成、業務自動化ツール(アプリ)の作成手順を体験するワークショップ

4. 学生・研究者向けの AI リテラシー教育の検討

学生の生成 AI 利用実態(習得状況)の調査

情報リテラシー教育への AI 導入方法や注意点

研究や論文執筆における AI の利用方法、論文本文への記述方法

5. その他

リポジトリの検索性向上や、海外研究者からの発見性を高める方法、メタデータ(タグ)の作成方法(入力の工夫)

OPAC への電子リソース情報搭載

チャットボットに関する勉強会

5. その他、感想・意見等ありましたら、ご記入ください。

※自由記述の回答を、AI を用いてグループ化したものです。記述は一部省略しましたが、重複する内容もそのまま記載しています。ただし、単に「参考になりました」などの場合は割愛しました。

1. 研修内容に関する好意的評価・感想

「2025 年の AI は 2008 年のスマホ」「爆速で 80 点」「仕事でミスくらいしますよね」等、印象的なパンチラインが立て続けにあり、AI 使用に関する心理的な壁が粉碎されました。「AI は 2008 年のスマホ」など興味深い導入でプレゼンの構成もたいへん参考になりました。

AI だとか DX だとか、実際図書館業務にどのように役立てることができるか、モヤっとしたものが少しクリアになった。

AI に関する考え方が整理できて、内容も充実してました。

AI に抱いていた心理的な壁の正体を確認することができ、よかったです。

AI は「手段」の一つであること、「作業分解は新人に作業を与えるように」というところがすごく腑に落ちました。

向き不向きや考え方のコツがわかってとても勉強になりました。

これまで AI の活用というと注意点(機密情報を入力するな、など)を必ず言われ、モチベーションが下がることがありましたが、今回の勉強会ではそういうことがなく、ぜひ使ってみたいと思わせるものでした。

これまでもいくつか生成 AI の勉強会に参加してきましたが、どうも自分事として踏み出せずにいました。今回は自分のレベルにぴったり合った勉強会だったのでしょう。

とても分かりやすく事例を交えてご説明いただけ、大変参考になりました。

マインドチェンジが一番大事だということがよくわかりました。

メッセージや重要な点が、非常に明確で、聴きやすく大変参考になりました。

自分でもはっきり認識できずにいたモヤっとしていた部分や、認識がずれていた部分をちょうどお話いただき、大変参考になりました。

生成 AI について、今後どういう風に利用していけばいいのか...というイメージがつかめていなかったが、「向き合い方」について考えることができて、とても良かったです。

生成 AI について「なんとなく」不安な気持ちがあったが、前向きに利用して行きたいなという気持ちに持っていくことができました。

生成 AI を業務に活用することに対する心理的なハードルが下がりました。

全体を通して、とてもすっきりと分かりやすく、楽しく、AI について知ることができました。

示してくださった AI を活用するマインドを頭に置いて、楽しく AI を活用していけたらと思うようになりました。

大変興味深く拝聴しました。特に、前半で登場した AI とスマホへの認識の比較が印象的でした。

非常に高い心理的な壁を感じていたのですが、相手 (AI) は文句を言わないみたいだしまずは使ってみなければ、と前向きな気分になりました。

「自分にもできるかも！」と少し自信が付きました。

生成 AI との距離感に迷っていた部分があり、ずいぶん明瞭になりました。

「作業の分解ができたなら 8 割方終わり」と言われたらちょっと出来る気になってきました。

私自身が、AI を使用することについて後ろ向きな印象をもっていたのは、ハルシネーションによるものだと言話を聞いていてわかりました。

得体のしれないもの、うさん臭いものとしてとらえておりましたが、日々の雑務の困りごとを解決するためのツールだということを認識しました。

AI への壁が低くなったと感じた。

AI への抵抗感がかなり減りました。

ちょっとした相談相手の感覚で気軽に使ってみようという気持ちになりました。

2. 講師・講演スタイルへの評価

オンライン研修だとどうしても眠くなることが多いのですが、今回は非常におもしろくかつためになる研修だったため、ずっと起きて話を聞き続けることができました。講師の話術によるところが大きいと思いました。

こういった生成 AI の話はエライ専門家の方が専門知識を話して、わかったような気になって終わることの方が多いが、今回は生成 AI への向き合い方を教えてくださり、一歩踏み出す勇気をもらえた気がします。

とても楽しく、ぐいぐいと引っ張ってくれて進行した気がしました。

ユーモアを交えたご講演で楽しく拝聴することができました。

講師が素晴らしかった。

講師の資料がとてもわかりやすく、デザインも素敵で、ものすごく気分が上がる勉強会でした。

講師の話術が素晴らしかった。

講師の人選が素晴らしく、大変わかりやすいお話で、スライドも素敵でした。

講師の方に知識があり、かつわかりやすく講義していただき大変参考になりました。

講師の方の講義資料がきれいで見やすく、進め方もテンポよく聞きやすく、内容も充実していて大変良い刺激をいただきました。

講師の方の説明が分かりやすく、特に話術が優れていて、楽しく学ぶことができました。

講師の方の話が面白く、全く退屈しなかった。

大変勉強になりましたし、聞いていて楽しい講義でした。

大変面白かったです。

3. 研修内容への要望・その他

図書館業務で前半を聞き逃したため、アーカイブを拝聴したいと思います。

AI に関する考え方が整理できて、内容も充実してましたが、専門用語等に関する予習が出来ればと思いました。

リテラシー教育において、生成 AI は、従来のようなコピー論文 NG...という方向だけでは不足で、新たな視点が必要になったと、自覚を高めました。

Consensus に関する質問についても丁寧にとりあげて下さってありがとうございました。普段どういうところから情報を得られていらっしゃるか、ぜひ共有いただけたら嬉しいです。

「生成系 AI の大学図書館業務への活用」よりも「アカデミックスキルとしての生成系 AI の活用状況(学生や研究者による活用の、現状と今後)」に関心があるが、情報収集が難しいと感じている。

入口としてはよかったが、生成系 AI についての(ある程度の)基礎知識があることが前提となる勉強会だったように思う。

講師が言い切られた内容のいくつか(ハルシネーションは 2027 年頃にはほぼゼロになる、高校で「情報 I」を履修した学生は生成系 AI の基礎を理解している...など)については、根拠の提示が必要な印象をもった。

生成 AI の活用は、事務職を無くす可能性がある。特にマニュアルに基づいて行う業務はロジックで対応すればよく、人の判断が介在する余地はない。

当館の他の職員にも見てほしい内容なのですが、動画もしくは資料の共有が可能にしていいただければ、たいへん助かります。